

GID学会・中塚理事長に聞く

性同一性障害(GID)の人が性別変更するにあたり、生殖能力をなくす手術要件を違憲とした最高裁の10月の決定に
関し、GID学会理事長で、岡山大、エンタークリニックスの
中塚幹也さん(62)「生殖医学」に、決定への受け止めや、今
後の課題を尋ねた。



望む性での人生 支える

性別を変更したくても、手術を望まない人、医療上の理由で手術できない人がいます。その場合、生まれ
た時の性で生き続けるしかありません。希望する仕事に就きにくかったり、結婚
できなかったり、つらくて自殺未遂をしたりする人も
います。今回の決定は、そ
うした人が望む性別で人生
のスタートラインに立つた
めの重要なものです。
外観要件についても、性
別変更の要件から外すべき
です。温泉やトイレでのト
ラブルを懸念する声があり
ますが、トランスジェンダー
の人は、周囲が混乱しない
よう気を付ける人がほとん
どです。各施設で工夫は
できると思います。

「必要な治療には保険適用を」

2017年、受診者に「手術しなくても性別を変更できる」としても手術をしますか?と尋ねたところ、7割が「する」と答えました。
性別適合手術の前には、ほとんどの人がホルモン治療を受けます。胸が膨らんだり声が低くなったりして、自分が望む性別で生きることの後悔はないか、周囲に受け入れてもらえるのかを慎重に確認するので
す。ただ、手術は保険適用になつたものの、ホルモン治療は保険適用外のまま。混合診療禁止のため、手術は実質、自費診療なのが現状です。費用は乳房の切除だと70万円ほど。女性から男性に性別変更する「トランス男性」が卵巣と子宮を切除し、尿道を延長し、陰茎を形成すると約300万円と大きな負担です。

自分の体をどうするのかは自分で決めるもので、強制的な手術は避けるべきです。しかし、必要な治療は保険適用されるよう変えるべきです。現在、保険適用
での性別適合手術が認められて
いる医療機関は全国で8カ所
(道内では札幌大病
院と札幌中央病院)しか
なく、さらに増やすことも
今後の課題です。
(尾張めぐみ)

本音話せる居場所を提供

札幌の川島さん、サイトで情報発信



ウェブサイト「トランスXコミュニティ」を立ち上げた川島暢華さん

本音を話す場所が少ないトランスジェンダーのために、当事者の1人として札幌市の川島暢華さん(62)が居場所づくりを進めてい
る。昨年、ウェブサイ
ト「トランスXコミュニティ」を立ち上げ、体と心の性別に違和感がある人向けのイベント告知や当事者インタビューなどを発信して
いる。川島さんは「性別に違和感を持つ人たちに居場所をつくり、情報発信もしていきたい」と話す。
川島さんは、ウェブなどの記事執筆や編集を手がける「オフィスノブ」(札幌市)代表で、自身もトランス女性。横浜市出身で、幼いころから男性としての性別違和感があったが、性的少数者に関する情報がな
い。15年に「人生は一度。隠し事をして生きるの嫌」と女性として生きることを決意。望む服装や髪形にし、20年からホルモン治療を始めた。心と体の性に違和感がある人が集まれる場が少なかったことから、昨年
から札幌市を中心に交流会を6回開催。延べ60人以上が参加し、ピクニックや飲み会も開く。
今後は性別変更の流れや、自身も昨年経験した戸籍名の変更の仕方などを掲載する予定。「いろいろな情報を知って自分のセクシユアリティを理解する人、生きやすくなる人もいる。当事者以外にも実情を知ってもらいたい」と話している。
(尾張めぐみ)

性別変更の生殖不能要件「違憲」

2017年、受診者に「手術しなくても性別を変更できる」としても手術をしますか?と尋ねたところ、7割が「する」と答えました。
性別適合手術の前には、ほとんどの人がホルモン治療を受けます。胸が膨らんだり声が低くなったりして、自分が望む性別で生きることの後悔はないか、周囲に受け入れてもらえるのかを慎重に確認するので
す。ただ、手術は保険適用になつたものの、ホルモン治療は保険適用外のまま。混合診療禁止のため、手術は実質、自費診療なのが現状です。費用は乳房の切除だと70万円ほど。女性から男性に性別変更する「トランス男性」が卵巣と子宮を切除し、尿道を延長し、陰茎を形成すると約300万円と大きな負担です。
自分の体をどうするのかは自分で決めるもので、強制的な手術は避けるべきです。しかし、必要な治療は保険適用されるよう変えるべきです。現在、保険適用
での性別適合手術が認められて
いる医療機関は全国で8カ所
(道内では札幌大病
院と札幌中央病院)しか
なく、さらに増やすことも
今後の課題です。
(尾張めぐみ)